

第2章 校内環境の観点から

DATA2-① 専科教員の配置について (小学校のみ)

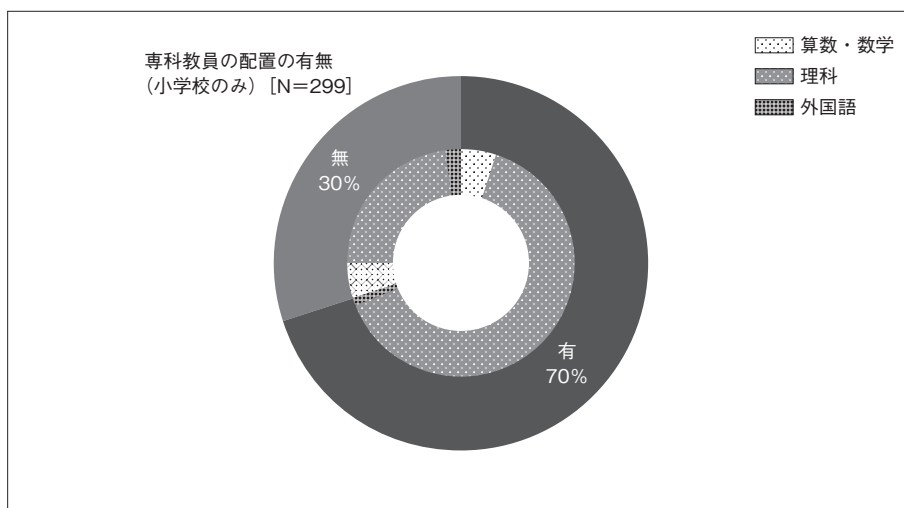
小学校における専科教員の配置について、回答者数299人に対して、配置が有る割合は70％であった。配置されている専科教員のうち、当該教科が専門の教員が68％、当該教科以外が専門（専門がない場合も含む）の教員が32％であった。

小学校における専科教員の配置は7割であるが、配置されている場合でも、当該教科以外が専門の教員が3分の1程度いる実態がみられた。

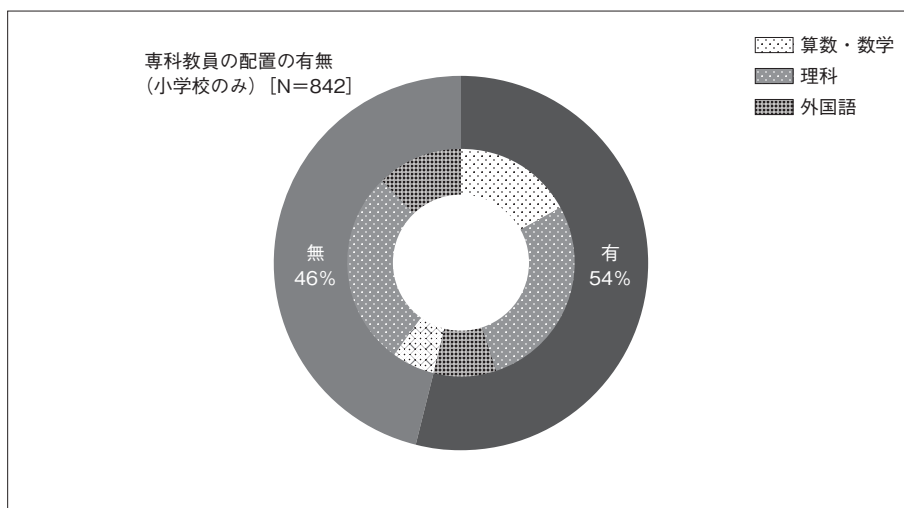
※ここでの「専科教員」とは、その教科を担当する正規・非正規教員を示します。

Q (小学校のみ) 専科教員は配置されていますか。(C-1)

(2020)

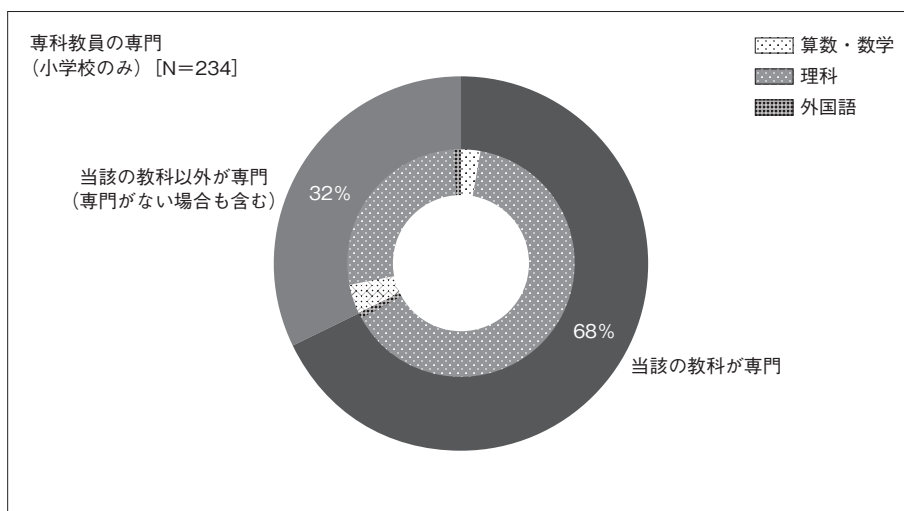


(2019)

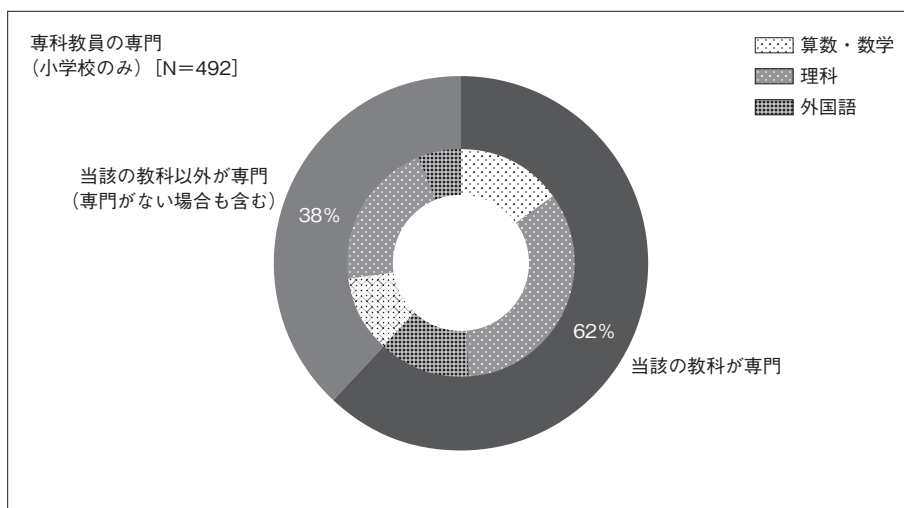


Q (小学校のみ) 専科教員が配置されている場合、その方は当該教科の専門の先生ですか。(C-2)

(2020)



(2019)



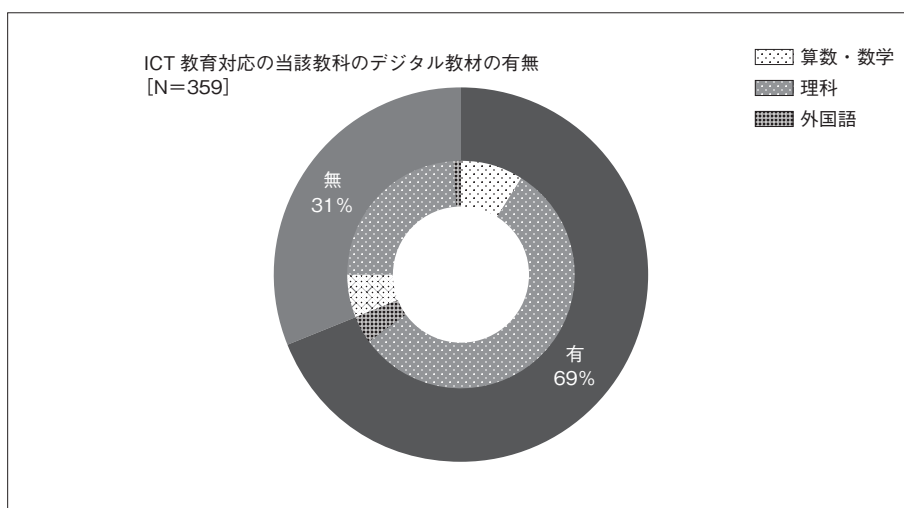
DATA2-② ICT教育対応のデジタル教材について

ICT教育対応のデジタル教材について、回答者数359人に対して、デジタル教材が有る割合が69%、デジタル教材が無い割合が31%であった。算数・数学のデジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「デジタル教科書」が64.7%、「プリント作成支援ソフト」が47.1%であった。理科のデジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「映像教材」が69.2%、「デジタル教科書」が45.5%であった。また、外国語のデジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「デジタル教科書」が71.4%、「映像教材」が42.9%であった。

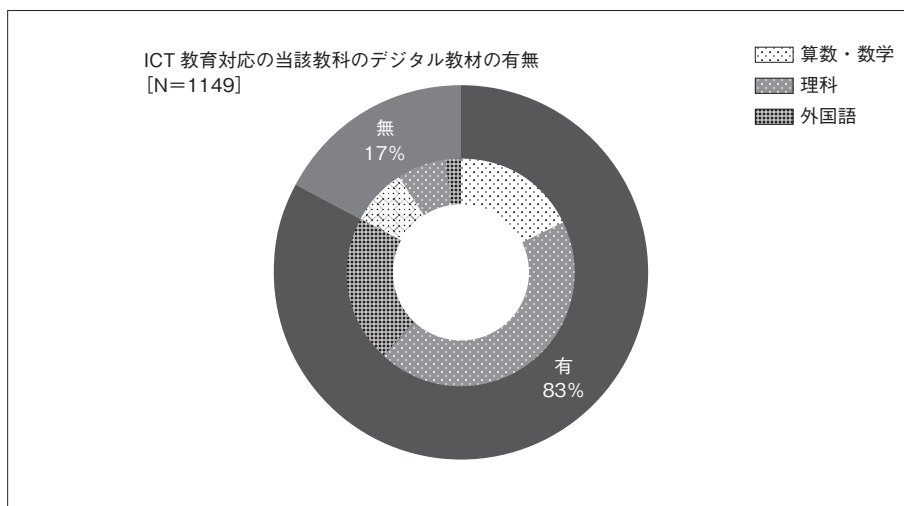
この結果から、デジタル教材の所有率は7割程度であり、今後のGIGAスクール構想の効果を高めるために、PCやタブレットなどのハード面とともに、教科の特性に応じたデジタル教材などのソフト面の充実が必要であると考えられる。

Q ICT教育対応の当該教科のデジタル教材はありますか。(C-7)

(2020)



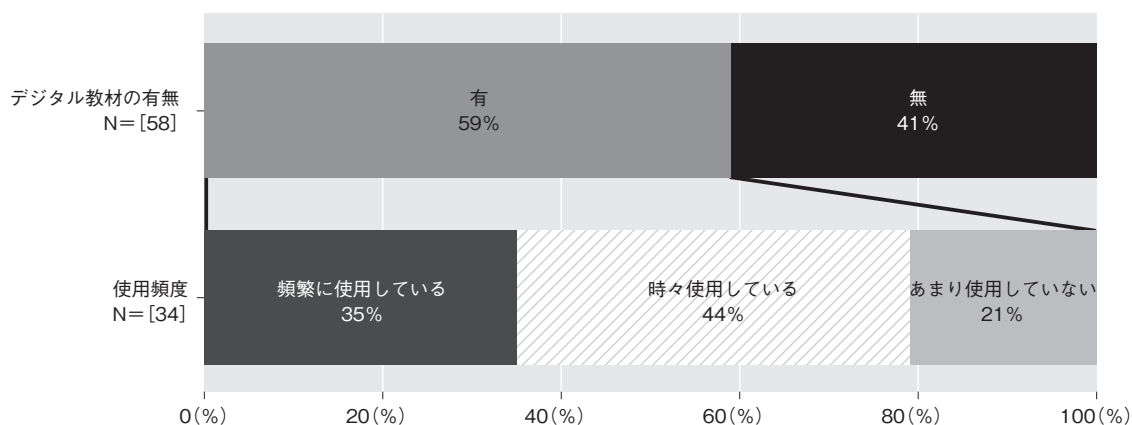
(2019)



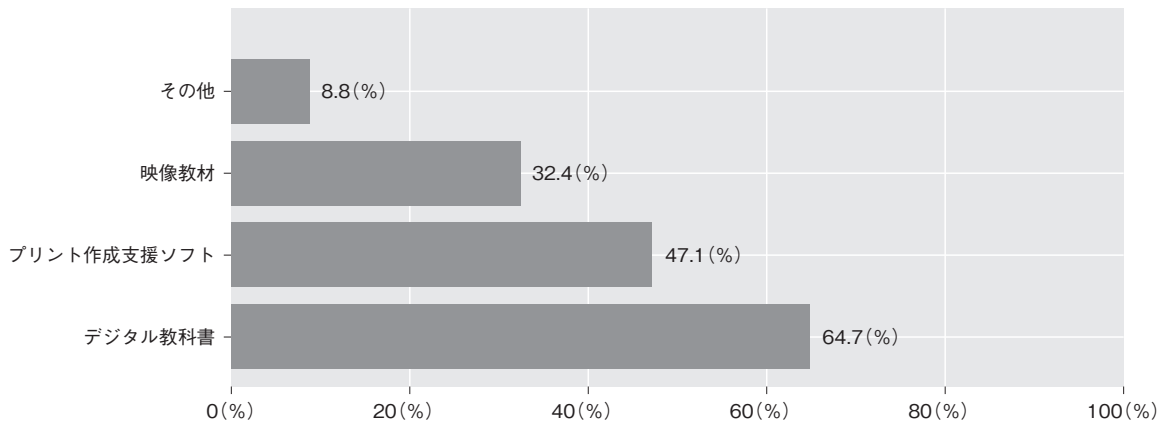
(算数・数学)

算数・数学のICT教育について、デジタル教材が有る割合が59%、デジタル教材が無い割合が41%であった。デジタル教材が有る場合、使用頻度として、「頻繁に使用している」が35%、「時々使用している」が44%で、それら2つを合わせて79%であった。また、デジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「デジタル教科書」が64.7%、「プリント作成支援ソフト」が47.1%、「映像教材」が32.4%であった。一方、デジタル教材が無い理由について、「購入していない」が62.5%、「環境が整っていない」が54.2%であった。

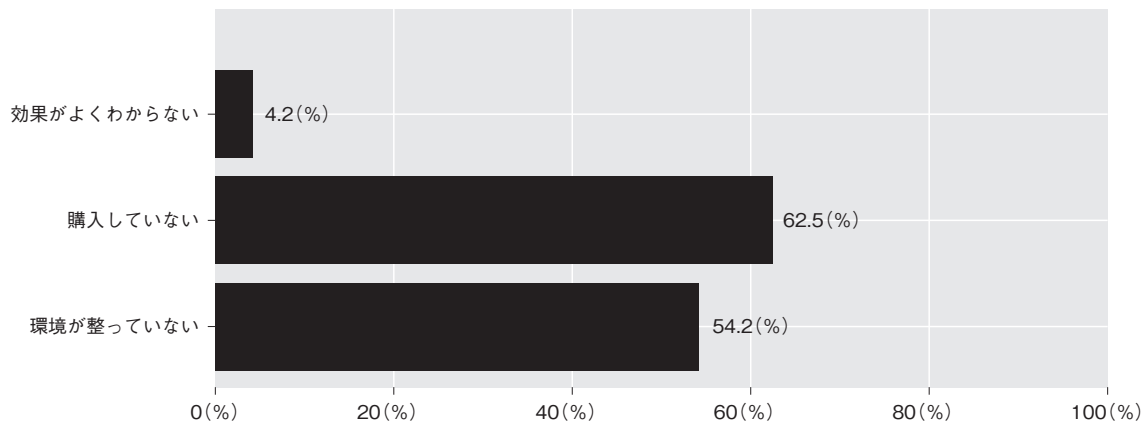
ICT 教育対応の算数・数学のデジタル教材の有無と使用頻度



デジタル教材が有る場合の使用教材 (複数回答可)



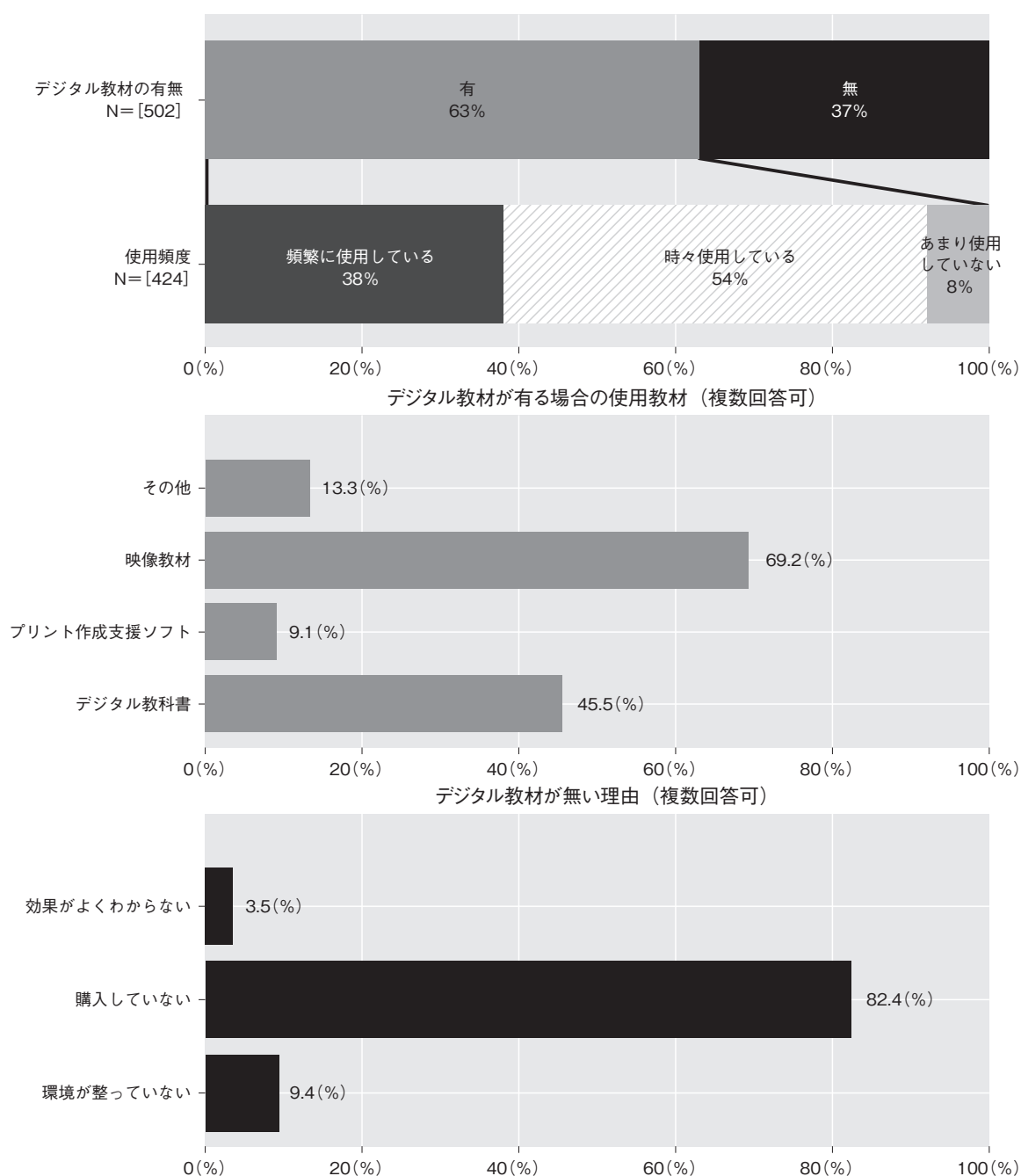
デジタル教材が無い理由 (複数回答可)



(理科)

理科のICT教育について、デジタル教材が有る割合が63%、デジタル教材が無い割合が37%であった。デジタル教材が有る場合、使用頻度として、「頻繁に使用している」が38%、「時々使用している」が54%で、それら2つを合わせて92%であった。また、デジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「映像教材」が69.2%、「デジタル教科書」が45.5%であった。一方、デジタル教材が無い理由について、「購入していない」が82.4%、「環境が整っていない」が9.4%であった。

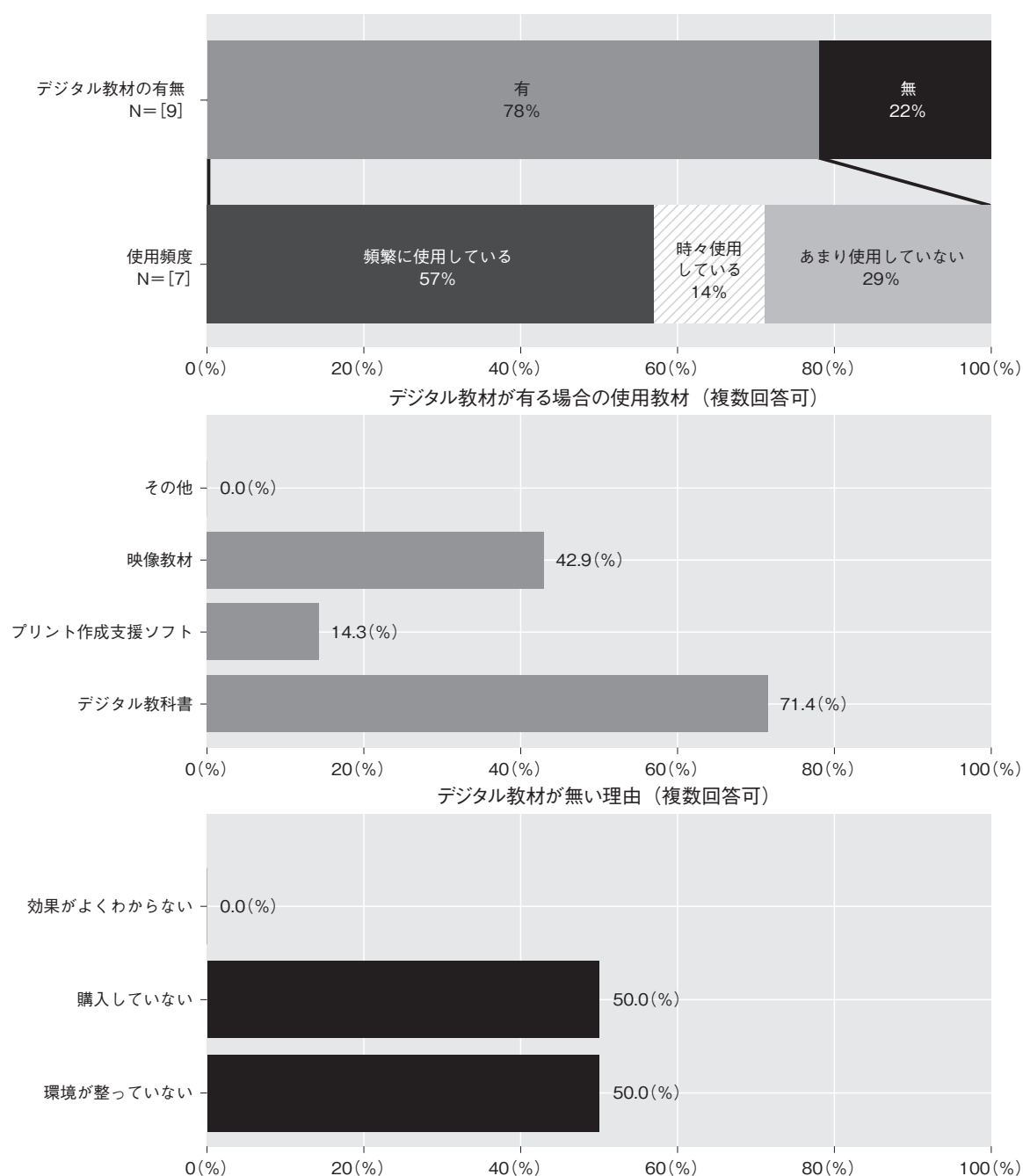
ICT 教育対応の理科のデジタル教材の有無と使用頻度



(外国語)

外国語のICT教育について、デジタル教材が有る割合が78%、デジタル教材が無い割合が22%であった。デジタル教材が有る場合、使用頻度として、「頻繁に使用している」が57%、「時々使用している」が14%で、それら2つを合わせて71%であった。また、デジタル教材が有ると答えた回答のうち、使用教材は、「デジタル教科書」が71.4%、「映像教材」が42.9%であった。一方、デジタル教材が無い理由について、「購入していない」、「環境が整っていない」がともに50%であった。

ICT 教育対応の外国語のデジタル教材の有無と使用頻度



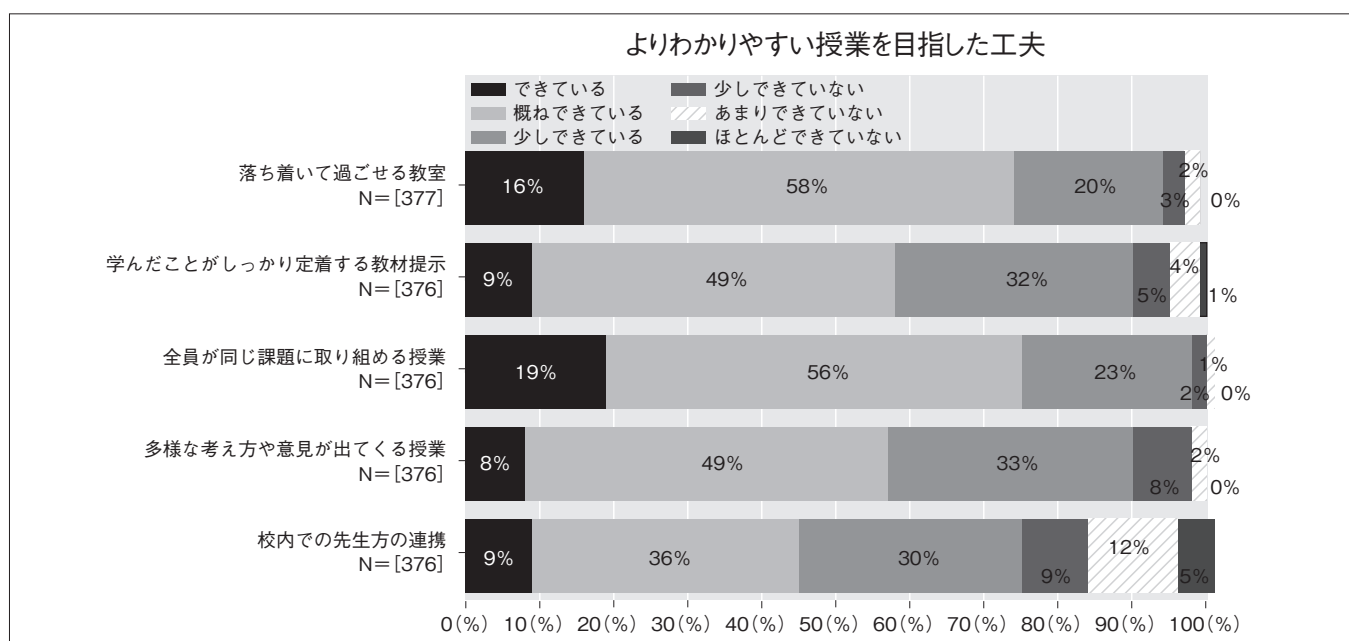
DATA2-③ ユニバーサルデザインの取り組みについて

よりわかりやすい授業を目指した工夫について、「できている」と「概ねできている」を合わせた割合が大きかった観点として、「全員が同じ課題に取り組める授業」が75%、「落ち着いて過ごせる教室」が74%であった。一方、「できている」と「概ねできている」を合わせた割合が小さかった観点として、「校内での先生方の連携」が45%であった。

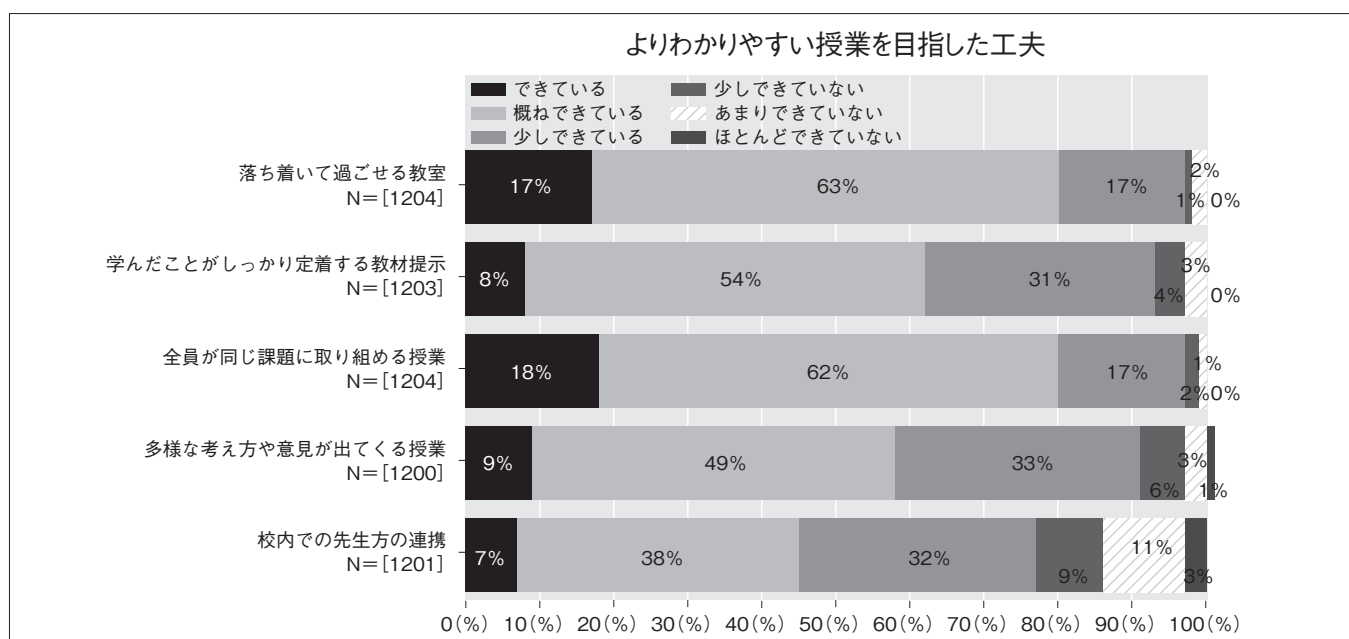
ユニバーサルデザインの取り組みについて、必要に応じて、校内の先生方で、黒板やノートの使い方、教員の指導スタイルを共有する研修を行うことなどが考えられる。

Q よりわかりやすい授業を目指した工夫について、以下の観点についてお答えください。(C-9)

(2020)

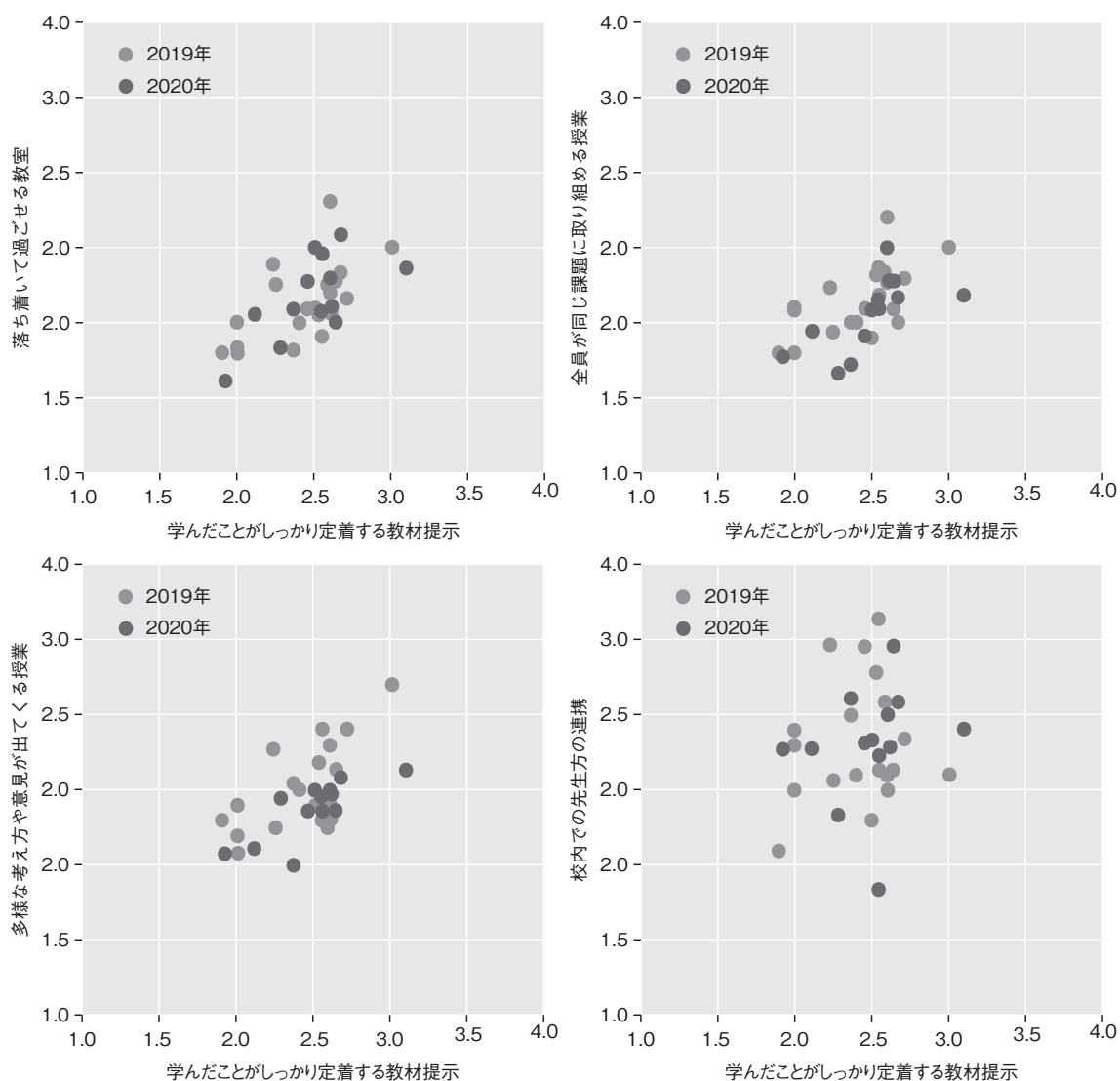


(2019)



ユニバーサルデザインの取り組みについての質問項目に関して、「学んだことがしっかり定着する教材提示」に対して、「落ち着いて過ごせる教室」、「全員が同じ課題に取り組める授業」、「多様な考え方や意見が出てくる授業」は相関がみられるが、「校内での先生方の連携」には相関があまりみられないことがわかった。

各学校におけるよりわかりやすい授業を目指した工夫に対する関係



※「できている」を1,「概ねできている」を2,「少しできている」を3,「少しできていない」を4,「あまりできていない」を5,「できていない」を6として、回答者数10名以上の各学校において、各質問項目に対する平均値をとることで数値化した。